

(3) ^{おおみず}大水や^{がい}雪の害をふせぐ

大水のひ害と大水をふせぐ努力

せせなぎ川は、大雨のたびにはんらんを繰り返し、そのたびに、家や田畑に大きなひ害をもたらしました。平成2年、村や地区民の長年のひ願であったせせなぎ川の^{かせんかいしゅう}河川改修工事が開始され、平成6年に完成しました。



^{せせなぎ}瀬川 昭和61年8月大水



現在のあじさい公園



^{せせなぎ}瀬川が流れていた場所



流れが変わった瀬川



橋工事(平成2年)



(県道橋)工事(平成2年)



改修した瀬川(平成6年)

雪の害をふせぐ

11月末になると、会津の山地は、雪がふりはじめます。会津は、越えち後山脈ごさんみやくと奥羽山脈おううさんみやくの間にはさまれたところにあります。大陸たいりくから日本海をわたってきた冷たい季節風きせつふうがこの山脈をこえる時に、たくさんの雪を降ふらせます。

○大雪のふった湯川村(平成12年度)



笈川・堂畑西線 1級村道



湯川村の中



雪とたたかう

村は、除雪^{じょせつ}を二つの方法で行っています。1つは、消雪パイプ、もう1つは、除雪^{きかい}機械によるものです。村は、車道を4台の除雪ドーザーで、歩道を^{こがた}小型除雪車2台で除雪します。降った雪が20cm以上になると、村から除雪^{うんてんしゆ}機械の運転手に電話が入ります。運転手は、公民館前の除雪サブセンターから出勤し、98の村道の除雪を行います。

国道49号線と国道121号線は国で除雪し、^{はまさき こうや}浜崎・高野・会津若松線など3本の^{しゅようちほうどう}県道と主要地方道1本は県で除雪します。

また、村では、^{ろせん}路線によっては、20cm以下でもじふぶき、ふきだまりなどにより歩行や通行ができない時は、その^{つど}都度除雪をし、歩行や通行の安全を守っています。

除雪体制図



(4) 災害にそなえる

湯川村では、洪水ハザードマップを作成し、住民に洪水ひ害の危険性や避難場所を知らせています。自分の避難場所を知り、万が一に備えることが大切です。



ハザードマップ確認



非常用持ち出し袋の確認



避難経路確認

2.健康な生活

(1) ごみのしまつ

家庭から出るごみ

ごみのしょ理は、わたしたちが生活する上で大切な仕事です。わたしたちの家庭から出るごみを調べてみると、年ごとにふえていることがわかります。

また、その種類も多く、紙類・生ごみなどのもえるものから、空き缶^{かん}・空きびん・ガラスなどのもえないものなどがあります。

ごみのしまつ

毎年ふえ続けていくごみを、昔^{むかし}のように各家庭でもやしたり、あなをほってうめたりすることは、場所もなくとてもきけんなのでできません。火災のおそれや有害な物質(ダイオキシン)が出てくるおそれがあるからです。

そこで集められたごみは、村^{いたく}が委託した業者の収集車^{しゅうしゅうしゃ}で会津若松市^{こうざしまち}にある会津地区広域事業組合^{あいづちくこういきじぎょうくみあい}ごみしょ理施設^{しせつ}に運ばれます。もえるごみは、この施設でもやされます。いやなにおいやよごれたけむりを工場の外に出さない設備^{せつび}になっています。ここでは、1日に、およそ225tのごみ(ごみ収集車112台分)のごみをしょ理することができます。ごみを集める人たちは、それぞれの受け持ちのはんいを決め、1日何回もごみしょ理施設との間を行き来しています。

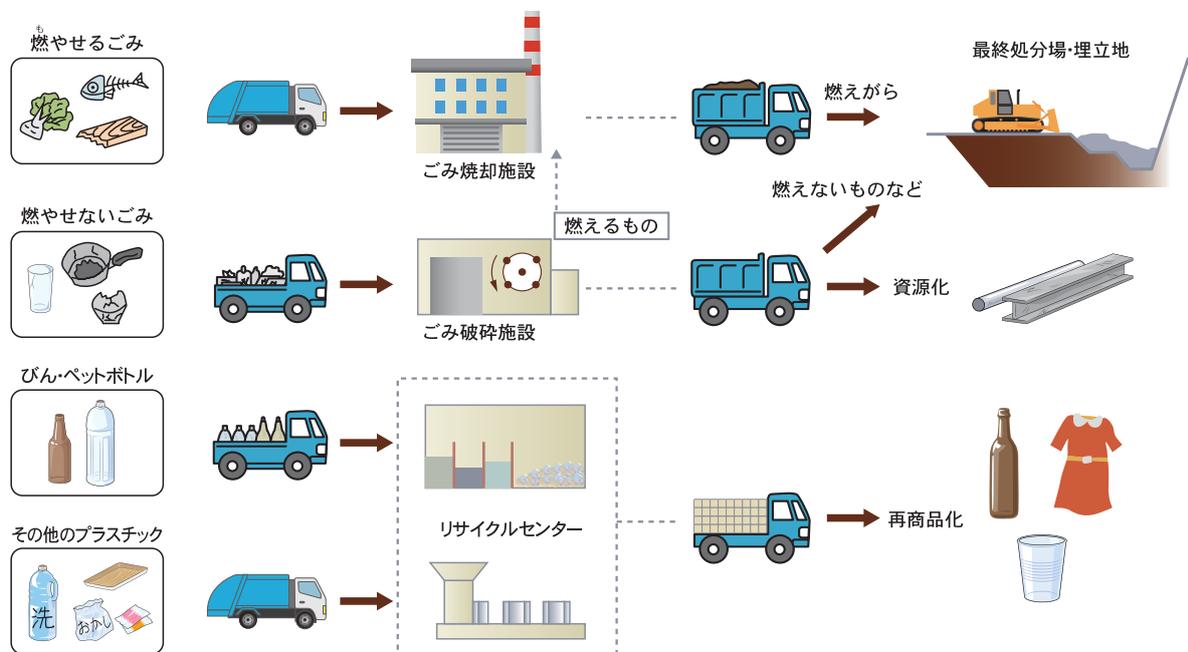
われたガラス、使えなくなった家具などのもえないごみは、はさい機^{のこ}にかけられ、細かくくだかれます。このごみしょ理施設でもえ残ったはい^{のこ}などといっしょに最終処分場^{さいしゅうしよぶんじょう}に運ばれ、うめたてられています。うめ

立て地では、シートからはい液がもれないようにし、集められてきれいな水にしてから外に流します。



ごみ収集車

○みなさんから出されるごみの流れ



ごみしよ理施設



ごみしよ理施設の中

さいしゅう 最終しよ分場(柳津町)のしくみとうめ立てのようす

最終しよ分場は、住宅地からはなれた山を切りくずしてつくられます。観光地でもある柳津町の自然を守るために、最新ぎじゅつを使って安全管理をてっていています。ふえ続けるごみのしよ理をみこして、平成14年に、新しいしよ分場(沼平第2一般廃棄物最終処理場)をすぐとなりに建設しました。

しゃ水構造のしくみ	
えんか 塩化ビニールシート	0.5mm
ふ しよく ふ 不織布	10.0mm
こうみつど 高密度ポリエチレンシート	2.0mm
ふ しよく ふ 不織布	10.0mm
けん ちようでんきよく 検地用電極(センサー)	0.0mm
自己しゃ水マット	4.0mm
ねつゆうき 熱融着ゴムシート	1.5mm
ふ しよく ふ 不織布	10.0mm



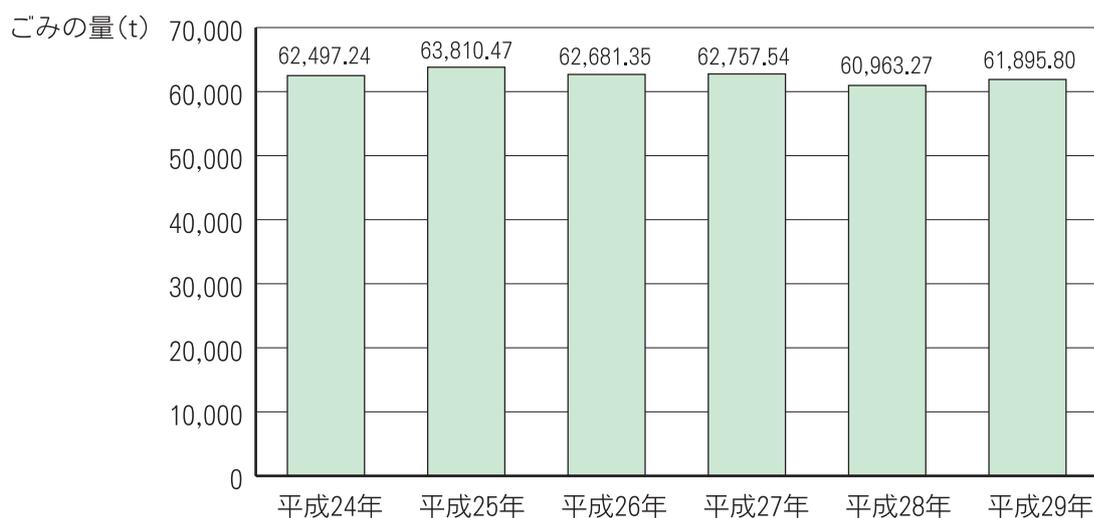
最終しよ分場(柳津町)

みんなの協力

このままごみがふえ続けると、ごみのしまつにかかるお金も年々多くなり、村にとってもふたんになります。まだ使えるものは、大切に使い、古新聞・ダンボール・かんなどはリサイクルをしてもう一度使うようにしたりしていきたいものです。

ふだんの生活の中で、できるだけごみをへらすように気をつけていくことが大切です。

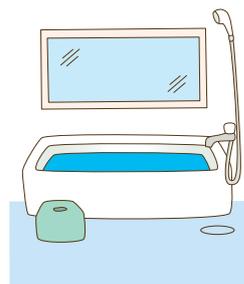
〇もえるごみの量調べ



(2) 水道のしせつ

村の人びとが使う水の量

わたしたちが生活する上で、水はなくてはならないものです。村の人びとが使う水の量は水道の使用開始により水洗トイレや温水用ボイラーなどを使う家庭が増えたことに加え、新しい住宅団地の整備により増えています。



●給水量(H29~H30.3)

1日の平均給水量	872.8 m ³	25mプール約3.5杯分
1日の最大給水量	930 m ³	25mプール約3.7杯分

水道の水源

わたしたちが使っている水道は、長い配水管を通してわたしたちの家へ来ています。配水管は、ほとんどの道路にうめられています。この長さは全部で約30,794キロメートルもあります。

水は平成23年度より猪苗代湖の水を会津若松市の滝沢浄水場できれいにして村に送られています。

水をきれいにするしくみ

村に水をおくっている^{あいづわかまつし}会津若松市の^{たきざわじょうすいじょう}滝沢浄水場は平成30年にあたらしくなり、いつでも安心、安全な水を届けられるように、セラミック^かろ過システムなどの^{さいしんせつび}最新設備を導入しました。しより^{のうりよく}能力は最大^{さいだい}27,000m³/日です。そして、^{しょうかせん}消火栓から出る水も水道水が使われます。



学校の^{みずの}水飲み場^ば



消 火 栓

水をひく仕事

村に水道が出来たのは今から約50年くらい前で、それまでは川の水や井戸水を利用していました。しかし利用している水も、よごれや病気の^{きん}菌などが混ざっているため水道を作ったのです。

水道を広げる^{けいかく}計画

村では、^{えいせいてき}衛生的で^{あんぜん}安全な水をどの^{ちく}地区にも^{きょうきゅう}供給できるように^{こうじ}工事を^{けいかくてき}計画的に進めて、全ての^{かんりょう}地区で完了しました。数世帯は自分の^{いどみず}井戸水を使っていますが、^{げんざい}現在はほとんどの家が水道を使っています。

平成14年度からおこなってきた古い^{すいどうかん}水道管を交換する工事が完了し、安心して水道を使えるようになりましたが、^{みずしげん}水資源を守るために、わたしたちは水を大切に使わなければなりません。

取水口と配水池の約10mの高低差を利用し、 浄水処理を行うことで、省エネルギーを実現しました。

- マンガン指輪槽**
 原水をマンガン指輪槽に通することで、
 鉄屑のろ過工程で鉄分やマンガン分を取り除きやすくなります。
- マンガン指輪槽**
 マンガン指輪槽(調整けたたこ)
- マンガン指輪槽**
 原水をマンガン指輪槽に投入し攪拌させることで原水にあるかたまりなどの異物の崩壊を促します。
- 原水調整池**
 緊急時には対応可能できるように、前段階した原水を貯留しています。

- 活性泥汚濁池**
 活性泥汚濁池
- 活性泥汚濁池**
 活性泥汚濁池



- 濾和槽**
 濾和槽
 濾和槽を通過させ、原水を中性化します。さらに水中に溶ける細かいなまりを固まりにし、水邊で沈下しやすくなるようにします。

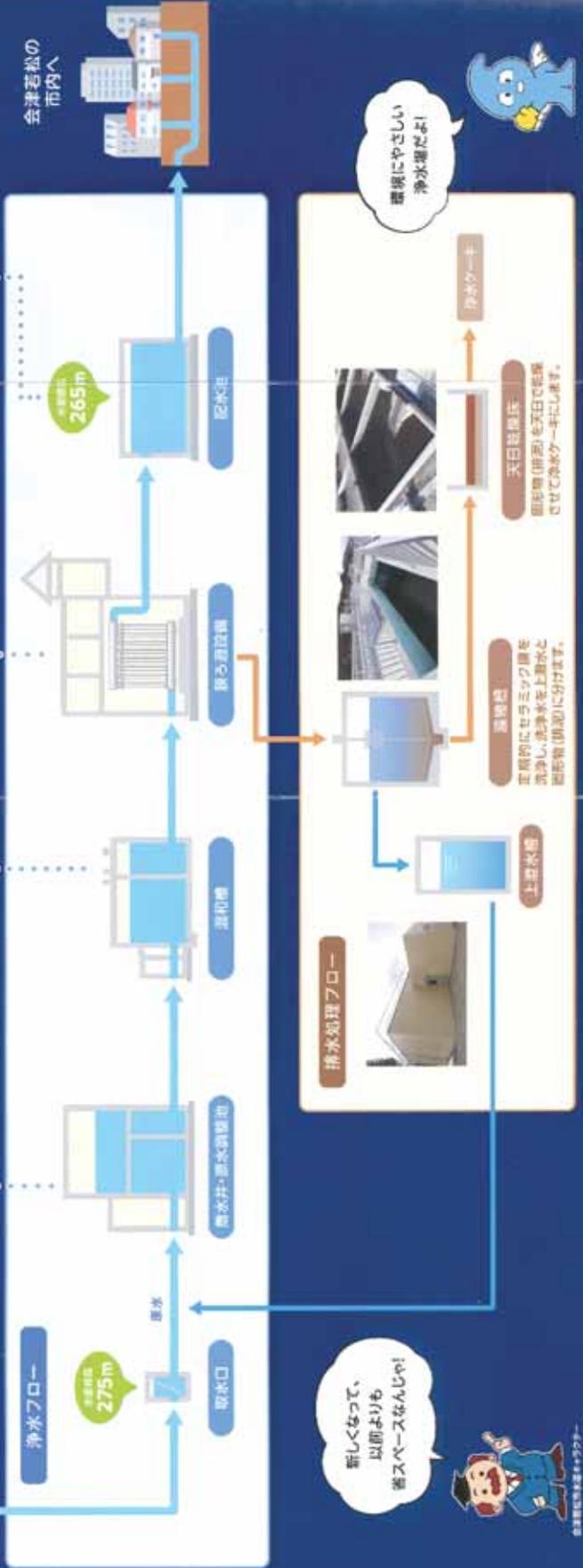


- 調ろ濾過槽**
 調ろ濾過槽
 調ろ濾過槽の最後の工程として、水中に残っている細かい粒子など、さらに一般細菌やウイルス、トリカブト菌を除去し、おいしい水道水にします。



- 配水池**
 配水池
 浄水処理された水道水を一時貯留し、市内に配水します。

猪苗代湖



氷博士

水博士

(3) 下水のしせつ

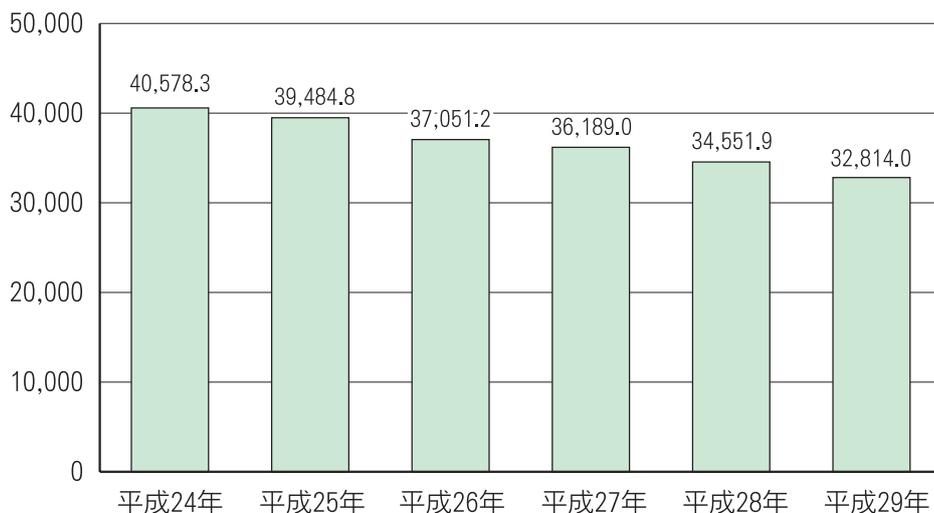
しにょうのしよ理

村から出るしにょうのしよ理は、村の人々のかんきょうと健康を守る上で、大切な仕事です。わたしたちの村から出るしにょうの量の移り変わりを調べてみると、年々へって来ているのがわかります。

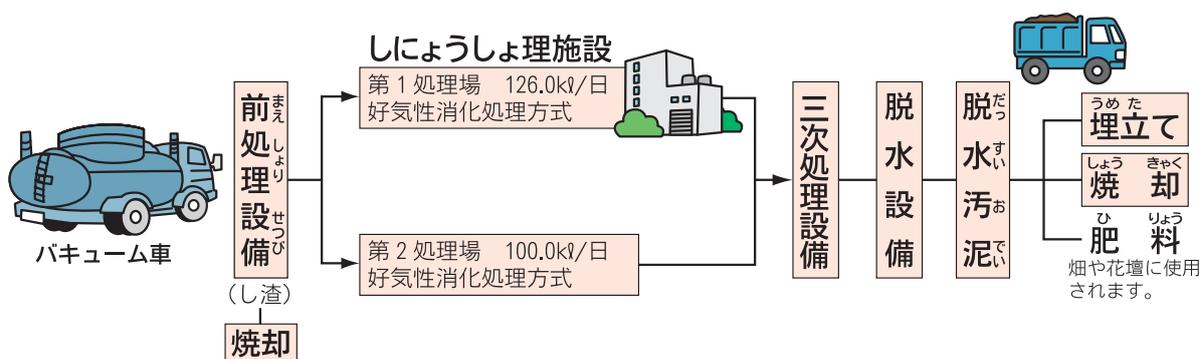
しにょうは、会津若松市神指町にある会津地区広域事業組合に運びこまれ、そこでしよ理されます。この工場は、1市9町4村のしにょうを処理しています。

○しにょうしよ理量のうつりかわり

しにょうの量(t)



○しにょうの流れ

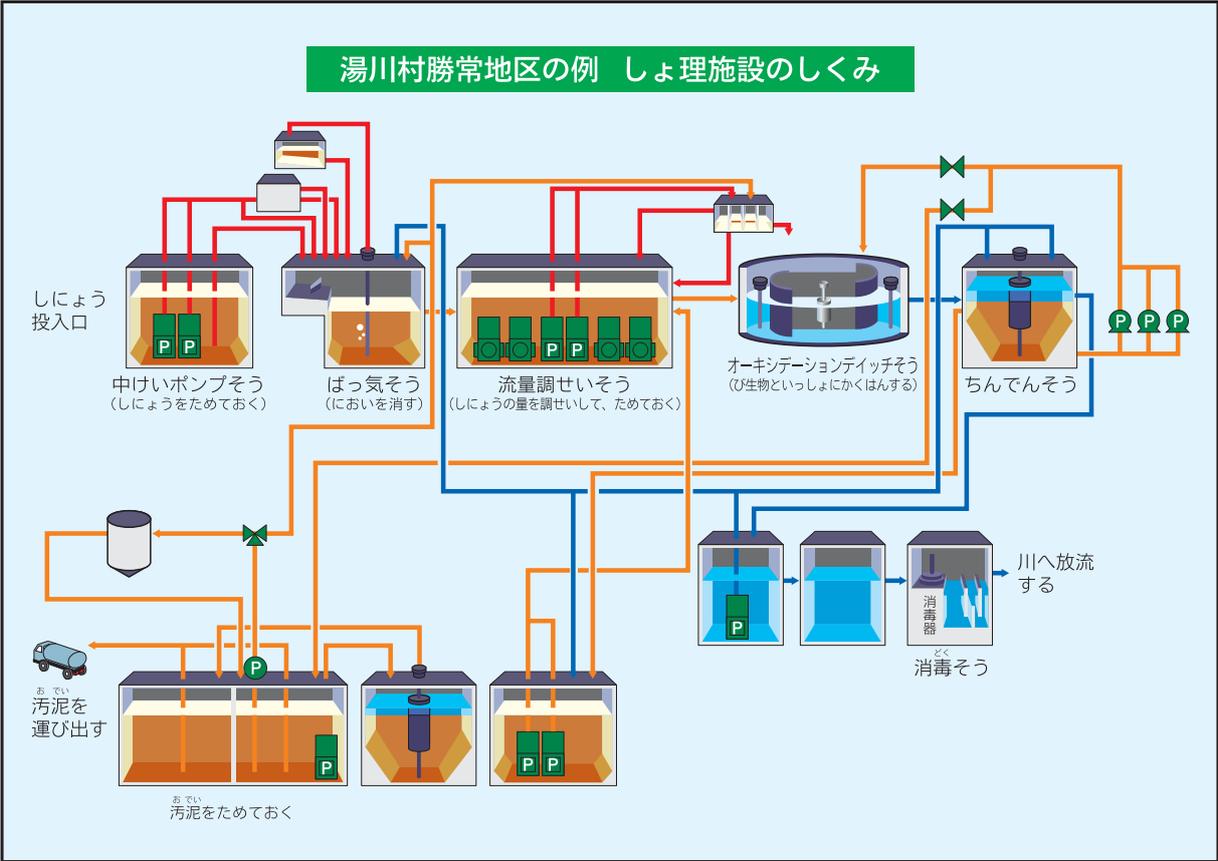


村の下水道

村では、かんきょうと健康を守ることを目的に、しにょうと生活排水^{はい}の両方のしよ理を行うために、計画的に下水道工事を進めてきました。平成18年に工事は完了^{かんりょう}し、現在、沼ノ上地区にある湯川浄化センター^{じょうか}と堂畑地区にある勝常地区しよ理施設^{しせつ}の2つの下水しよ理施設^{しせつ}で、村のどの家も下水を使うことができます。



勝常地区しよ理施設(平成13年完成)
しよ理区域：勝常小学校区内



湯川^{しよ}浄化センター(平成15年完成)
 しょ理区域：笈川小学校区内+熊川、上・下樽川、石伏地区

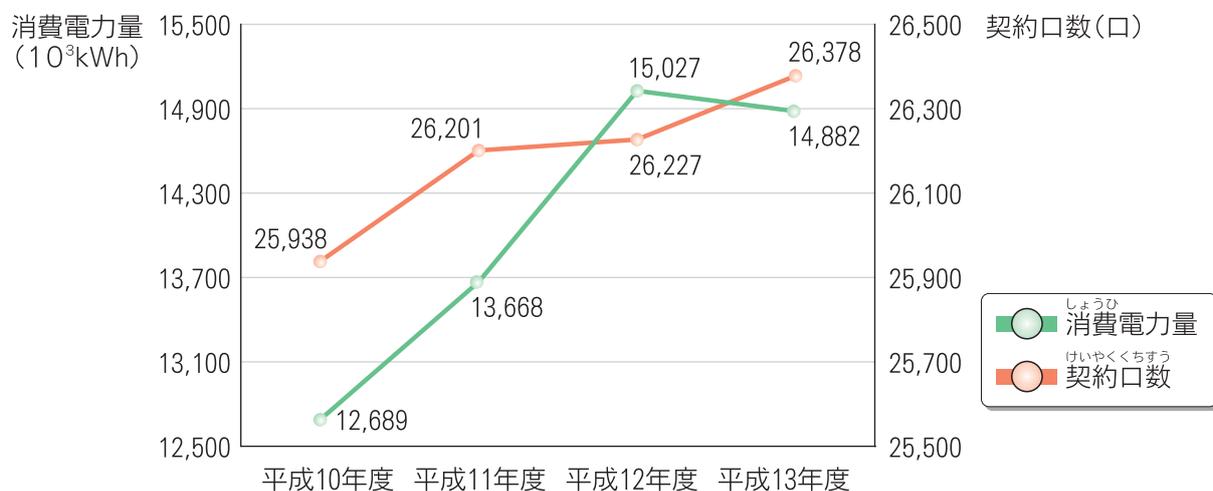
(4) 電気とガス

① 電 気

村の人びとが使う電気

湯川村の人びとが使う電気の量は、年々ふえてきました。これは、湯川村の人びとの生活が便利べんりになったので電気製品を多く使い、産業さんぎょうもさかんになったことが、電気でんきを多く使うようになった原因げんいんです。

○ 湯川村で使った電気の総量そう



②ガ ス

ガスの使用

昔は、家庭の燃料は、まき・木炭・石炭・練炭などが多く使われていました。産業の発達と人びとの生活が便利になるにつれて、発熱量が高く、使用方法が簡単で、安全にあつかえるガスが、ほとんどの家庭で使われるようになってきました。

村では、都市ガスの施設がないので、プロパン(LPガス)が使われています。

ガスは、大変便利なものですが、もれると中毒や爆発、火災のおそれがあり大変危険です。そこで、ガス販売店では、月に1回メーターの検針の日に、ガスボンベのまわりの、保安点検を行っています。また、定期的に液化石油ガス法にもとづいた保安点検も行っています。そして、すべての設備について調べます。

水・電気・ガスは、人びとの生活に欠かすことのできないものです。しかし、これらはかぎられた資源でもあります。そこで、資源を守るために、みんなで大切に使用なくてはなりません。



LPガス

3.ゆたかな生活

(1) 村の公共施設^{しせつ}

村の人がだれでも使うことのできるさまざまな施設があります。



役 場



公 民 館



高齢者^{こうれいしゃ}コミュニティセンター



保健センター



保 育 所



体 育 館



ユースピアゆがわ



ゆがわ幼稚園



のうぎょうぎじゅつ
農業技術センター



野球場



テニスコート



ゲートボール場

(2) ^{こうみんかん}公民館と人々の暮らし

村の人たちは、公民館でさまざまな活動に取り組んでいます。

公民館には館長さんと係の^{かかり}人がいます。公民館の行事は地域に住むすべての人を^{たいしょう}対象にして計画を立てなければならないので大変です。また、公民館の活動は、生涯^{しょうがい}にわたっての学習ができるように進められなければなりません。そのために、みんなが楽しく学習できるように、年代や性別に合わせて学習内容をくふうしています。



あじさい学級



英会話教室



すこやかキッズ





おはなし広場



ゆがわ物づくり塾



会津三十三観音

湯川村塾



○湯川村案内図（役場周辺）



湯川中学校



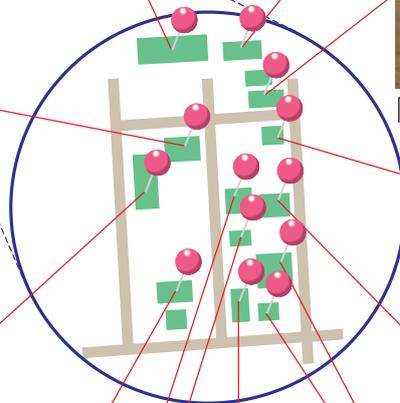
保育所



「テニスコート」と「ゲートボール場」



湯川村役場



ちゆうざいしよ
駐在所



デイサービスセンター



ユースピアゆがわ



「食材センター」と
「JA会津よつば湯川支店」



じよせつ
除雪サブセンター



体育館



公民館



保健センター



高齢者コミュニティセンター

○湯川村案内図



野 球 場



勝 常 寺



勝常小学校



道の駅あいつ 湯川・会津坂下



遍 照 寺



カントリー



工業団地



筧川駅



筧川小学校



ゆがわ幼稚園



湯川郵便局



エレベーター

IV かわってきた湯川村

(1) 学校のうつり変わり

わたしたちの学校は、いつできたのでしょうか。学校には沿革誌^{えんかくし}といって、学校の歴史^{れきし}を書いた帳簿^{ちようぼ}があります。学校の沿革誌をみると、わたしたちの学校がいつ、どこに、どのようにしてできたか、どのように変わってきたかがわかります。

湯川村には、笈川小学校・勝常小学校・湯川中学校の3つの学校がありますが、ここでは笈川小学校と勝常小学校のことを例^{れい}にして、学校のうつり変わりを調べました。

明治のころの学校

わたしたちの学校は、約130年くらい前にお寺^かを借りてはじまりました。1873年(明治6年)に、笈川小学校は妙興寺^{みようこうじ}を、勝常小学校は勝常寺を借りてはじまりました。その後、通学する人がふえ、せまくなったので勝常小学校は1885年(明治18年)、笈川小学校は1886年(明治19年)に新しくたてられました。

そのころの校舎^{こうしゃ}は、土蔵^{どぞう}で、屋根はかやぶき、戸はしょうじ戸で、ござやむしろの上にすわり、つくえにむかって勉強しました。えん筆ではなく、^{ふで}筆で書いていました。服そうも今のわたしたちとはちがっていました。



みようこうじ
妙興寺(明治6年5月3日創立)



しょうじょうじ
勝常寺(明治6年5月25日創立)

たいしょう しょうわ
大正～昭和のはじめのころの学校

子どもたちみんなが通う義務教育ぎむきょういくとなって、1923年(大正12年)に、
筧川尋常高等小学校じんじょうこうとうと勝常尋常高等小学校こうができました。このころの校舎こうしゃは、木造2階建てもくぞうだてで、屋根はかわらぶきでした。窓はガラス戸になり、そのため教室は明るくなりました。



筧川尋常高等小学校(大正のころ)



勝常尋常高等小学校(昭和のはじめ)



そつぎょうせい
昭和7年度の卒業生



やがいしゃせい
筧川小(野外写生)



じゅぎょうふうけい
勝常小(授業風景)

戦争が終わったあとの学校

1947年(昭和22年)に学校の制度がかわり、小学校と中学校に分かれ、笈川村立笈川小学校と勝常村立勝常小学校になりました。このころは戦争が終わったあとだけに、教科書はザラ紙に印刷したものでした。また、えん筆やノートもそまつなものでした。

1957年(昭和32年)に、笈川村と勝常村が合併して、湯川村となり、湯川村立笈川小学校と湯川村立勝常小学校と名前がかわりました。

昭和22年
新制度発足時の
笈川村立笈川小学校



昭和25年に建てられた
勝常村立勝常小学校

となりに中学校が
建っていました。
昭和32年合併後には
湯川村立勝常小学校と
なりました。

昭和38年度の卒業生
男の子は学生服を着ていました。



今の学校

筈川小学校も勝常小学校も校舎が古くなったので、筈川小学校は1978年(昭和53年)に、勝常小学校は、1979年(昭和54年)に現在の鉄筋コンクリート3階建てのりっぱな校舎ができました。

どちらも、体育館、プールがあります。

平成10年には、パソコンが導入され、インターネットを使って学習できるようになりました。



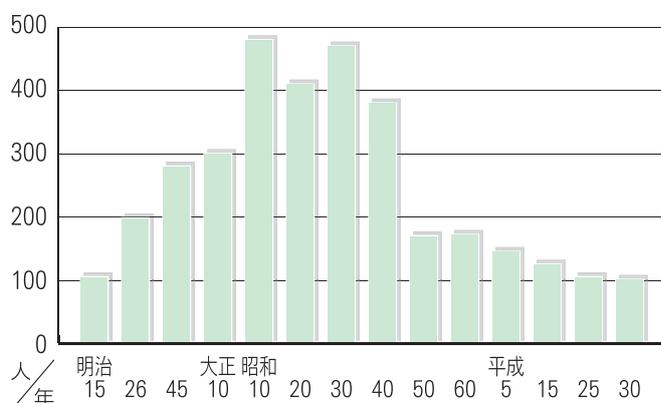
今の筈川小学校



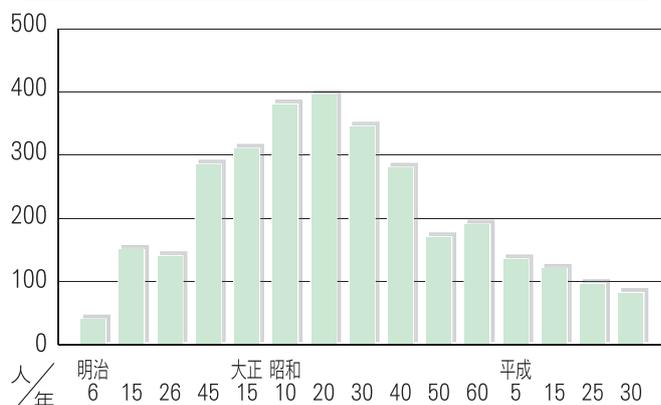
パソコン学習

○児童数のうつりかわり

筈川小学校の児童数のうつりかわり



勝常小学校の児童数のうつりかわり



今の勝常小学校

(尋常高等小学校の時は、尋常科(6年まで)の人数を掲載した)

(2) 村のうつりかわり

湯川村ができるまで〈現在の湯川村〉

わたしたちの湯川村は、「米と文化の里」と言われるように、古くから勝常寺のような^{ぶつきょう}仏教文化が^{さか}栄え、人々のくらしも^{ゆた}豊かな^{だいち}大地の^{めぐ}恵みを受けて、^ち地域^{いなき}産業として^{のうぎょう}稲作を中心とした^{はったつ}農業が発達してきました。村では、健康で文化的な村づくりをめざして、いろいろなことに^{どりよく}努力してきました。

農業の^{はってん}発展のために、大きな田や畑を作る土地の^{せいび}整備をしたり^{おおがた}大型の^{きかい}農業機械を導入するようになりました。農業^{ぎじゅつ}技術センターやカントリーエレベーターを作って、農業の^{きんだい}近代化をはかりました。

さらに、^{ふくし}福祉にも力を入れ、^{ほけん}保健センターや^{こうれいしゃ}高齢者コミュニティセンター、^{ろうご}デイサービスセンターなども作られ、^{しんばい}老後も心配なくくらすことができるようになりました。



農業技術センター



ライスセンター



保健センター



デイサービスセンター